

令和6年度只見町成人式



《特集》
 只見町成人式…………… 2～3
 《News&Flash》…………… 4～5
 《町の話題》…………… 6～10

今月の表紙

「令和6年度只見町成人式」

今年度、20歳を迎えた方、迎えられる方、誠におめでとうございます。
 参加者は、久しぶりに顔を合わせる友人たちとの会話に笑顔があふれていました。(詳細：P2～3)

9
 月号
 No. 652
 2024
 令和6年9月10日



おめでとうございます!

令和6年度 只見町成人式

令和6年度の只見町成人式が8月15日に季の郷湯ら里で行われ、山村留学生19期生3人を含む30人（男性22人、女性8人）が出席しました。

始めに渡部勇夫町長から祝辞が述べられました。その後、成人証書授与が行われ、渡部町長から参加者一人一人に成人証書が手渡されました。証書を受け取った後、参加者のメッセージが読み上げられ、20年間の感謝や20歳を迎えた思いが伝えられました。

「先輩からのメッセージ」では、佐藤賢人さん（只見町社会福祉協議会勤務）が「これから様々な経験をして、周りから『あの人のようになりたい』と思ってもらえるような素敵な大人になってください」とメッセージを贈りました。式の最後には、参加者を代表して、目黒希さんが謝辞を述べました。

式後には、18歳の酒プロジェクトの参加者に自分たちで作ったお酒が渡されました。

謝辞



代表謝辞 目黒 希さん

本日は、私たちにこのよう盛大な節目の場を設けていただき誠にありがとうございます。

無事に20歳を迎えることができたのも、たくさんの愛情を注ぎ育ててくれた家族や、お世話になった先生方、幼いころから暖かく見守ってくださった地域の皆様のおかげです。

高校を卒業し、社会にでると重い責任や不安を感じることも多くありますが、それ以上にやりがいや楽しさを感じています。

この先、悩み迷い挫折を感じることもあると思います。しかし、私たちにはここに集まった仲間がいます。地域の頼れる皆さんもいます。

私たちは20歳を迎えたとはいえ、大人と呼ばれるにはまだまだ未熟です。

それぞれの目標に向かって努力してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

「18歳の酒」プロジェクト



「18歳の酒」プロジェクトとは、只見高校・南会津高校の3年生を対象に地元の“ものづくり”に直接触れてもらいたいという思いにより始まったプロジェクトです。

高校3年生の時に「酒米づくり」と「酒造り」を体験します。できあがったお酒は2年間貯蔵し、プロジェクト参加者に成人式でプレゼントされます。

当日は、参加者を代表して山内友斗さんが、18歳の酒プロジェクト実行委員会の山内征久会長から「18歳の酒」を受け取りました。

成人証書を受け取る参加者



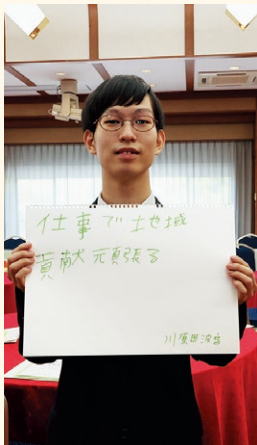
久々の再会に笑顔の皆さん



～夢に向かって～

参加した皆様に夢や目標を伺いました。
これからも夢に向かって頑張ってください。

※撮影にご承諾いただいた方のみを掲載しております。
紙面の都合上、撮影させていただいた方の一部を紹介しております。



朝日財産区

管理委員の選任

朝日財産区管理委員の選任について、只見町議会6月会議において同意がなされ、次の7人が新委員に選任されました。

また、辞令交付は、8月5日に只見町役場町下庁舎で行われました。任期は令和6年8月1日から4年間です。

○朝日財産区管理委員（敬称略）

- ・大塚純一郎（会長）
- ・横山 平
- ・菅家 達朗
- ・齋藤 博俊
- ・酒井 仁
- ・酒井 敏紀
- ・目黒 直也



▲新たに管理委員に選任された皆さん

まちづくりの人材確保のため

「オンライン町村役場見学ツアー」開催

公務員に関心のある学生や社会人に向けた「オンライン町村役場見学ツアー」が8月20日に実施され、只見町を含めて10町村の紹介が行われました。

この事業は、福島県が町村職員の採用活動を支援するもので、各町村のPRや職員の仕事内容紹介を行い、将来的な職員確保を目的としています。

只見町の紹介では県外出身の若手町職員が、只見町で働こうと思ったきっかけなどを視聴者に向けて伝えました。



▲これから進路を決める高校生や大学生の方が視聴しました

只見町で進路を考えるキッカケに

「只見高校企業説明会」実施

町は「只見高校企業説明会」を8月20日に実施しました。

企業説明会には只見高校生13人が参加し、永洗建設株式会社、南会津地方広域市町村圏組合消防署只見出張所、株式会社社会津工場、株式会社季の郷湯ら里、介護老人保健施設こぶし苑（社会福祉法人南会津会）、只見町役場を訪問しました。

同企業説明会は、これからの進路を考える高校生が、町内にどんな企業があり、どのような業務を行っているのかを知り、只見町で就職するキッカケづくりを目的としています。



▲今年新たに開所した消防署で仕事の説明を受けた高校生

地域農業の担い手不足解消のため

「只見町新規就農相談会」開催

町は、新規就農希望者の就農・移住相談のための「只見町新規就農相談会」を8月17日に、埼玉県羽生市のイオンモール羽生で開催しました。これは地域農業の担い手の確保を目的に、就農支援や移住支援のPRを行うものです。

相談会には、現在移住を検討している方が訪れた他、只見線に興味がある方などが訪れました。

また、ブース訪問者にはブナりん」と記念撮影や只見町の特産品などを景品としたガラポンで広く町のPRを行いました。



▲就農や移住の説明を聞くブース訪問者

モンベルとの包括連携協定事業 カヤック&サイクリングガイド育成講習会実施

株式会社モンベルと町は令和4年8月に包括連携協定を締結しています。アウトドアツーリズム（旅行者自身が実際に参加・体験することを目的とした旅行）の推進と安定した受け入れ体制の確立に向けた取り組みとして、日本レクリエーションカヌー協会（JRC A）公認指導員講習（カヤックガイド講習）とサイクリングガイド講習を実施しました。

カヤックガイド講習は7月9日、10日の2日間で行われ、町内の8人が参加しました。1日目は、カヌー・カヤックの基礎的な知識や公認指導員の役割について、また安全管理などの講習が行われた後、実際にカヤックを使用した実技講習を行いました。2日目は、JRC A公認指導員の筆記試験及び実技試験が行われ、参加者全員が合格しました。



▲講習を受ける参加者



▲カヤックで実技を行う参加者

サイクリングガイド講習は7月23日、24日で行われ、町内の5人が参加しました。1日目は、交通法規や自転車に実践乗車し、ハンドサインや集団走行体験などを行いました。2日目は、メカニカルスキルアップ講習を行い、自転車のタイヤ交換や走行前点検を学びました。その後、ガイドとしてサイクリングコースの企画力を高めるために、2班に分かれてそれぞれが設定したモデルコースの魅力や見どころなどの解説を行いました。また、講師を務めたサイクルアドバイザーの小口良平氏を交え、それぞれのコースの評価や、意見交換を行いました。

今回の講習会を通して、カヤックや自転車を活用したアウトドアツーリズムの受け入れ態勢の整備を進めていきます。



▲サイクリングコースを企画する参加者



▲タイヤ交換を行う参加者

千葉県柏市「第44回柏まつり2024」開催!

ふるさと交流都市提携30周年を迎えた柏市のアツい2日間に只見町も参加!



▲柏まつり初日の夜に模擬演舞を務めた只見町チーム

今年で只見町とのふるさと交流都市提携30周年を迎える千葉県柏市の「柏まつり」が7月27日、28日に開催されました。

オープニングセレモニーは、町長代理の新國副町長、佐藤町議会議長が来賓として出席し、テープカットで今年の柏まつりが始まりました。

今年は新たに、422人が100メートルずつをリレーで繋ぐ「めざせ☆世界記録! みんなでつなぐ42.195キロリレー」が行われ、只見町からも6人が参加しました。

柏駅東口のダブルデッキに設置されたPR広場では、只見高校生が山村教育留学制度の紹介などを行い、只見米ブランド協議会が只見産米のPRをしました。

27日の夜には「伝統柏おどり」が行われ、柏市役所チームや柏市地元団体らと共に只見町チームが模擬演舞を行いました。模擬演舞後は、来場者総参加で輪おどりが行われました。



▲只見町のPRでステージ上がる新國副町長と柏市出身の町職員沼田さん



▲リレー区間を全力で走る参加者



▲只見町や山村教育留学制度のPRをした只見高校生(右:飯高あおいさん、左:永峯麻依佳さん)



▲只見町のお米の安心安全と美味しさを伝える只見米ブランド協議会



▲輪踊りで賑わう柏駅西口前



▲只見町でも演奏を披露していただいたことのある柏市立柏高校吹奏楽部は2日目のステージを盛り上げました

幕末最後のサムライ 河井継之助をしのぶ

「河井継之助墓前祭」、「河井継之助を語る会」が行われました

「河井継之助墓前祭」が、河井継之助の命日となる8月16日に医王寺で行われました。

墓前祭は、焼香や読経が行われ、その後、渡部町長から追悼の言葉が述べられました。

墓前祭終了後は、「河井継之助を語る会」が只見公民館で開催され、飯塚恒夫さんの発声で献杯が行われました。その後、長岡藩主17代当主の牧野氏、慈眼寺住職らが河井継之助に対する思い等を話されました。

また、会の中では、長岡藩からいただいたとされる約150年前の着物が参加者にお披露目されました。



▲河井継之助について語る長岡藩主17代当主牧野氏

最後のサムライから学ぶ

「夏休み！河井継之助勉強会」開催



▲河井継之助の姿に扮し解説をする目黒氏と熱心に解説を聞く参加者

「夏休み！河井継之助勉強会」が8月18日に河井継之助記念館で開催され、子どもから大人まで15人が参加しました。

講師は、河井継之助記念館ボランティアガイドの会の目黒信会長が務めました。

勉強会で参加者らは、河井継之助の生涯や考え方の他、只見町での戊辰戦争、越後と只見町の関わりなどについて学び、勉強会後は、医王寺にある河井継之助の墓を参拝しました。

明和青年団主催 「明和地区大盆踊り」開催

「明和地区大盆踊り」が8月15日に明和青年団の主催で開催され、帰省者をはじめ町内外から多くの方が訪れました。

会場では、明和青年団などによる出店が来場者をお迎えし、お囃子の演奏に合わせ、只見中学生が会津磐梯山の歌い手として参加しました。

恒例のお楽しみ抽選会の他、花火が打ち上げられ、来場者は「明和地区大盆踊り」を楽しみました。



▲お囃子に合わせて踊る来場者

白獅子旗争奪第47回福島県児童ソフトボール大会 只見ベアーズ 南会津大会優勝 & 県大会ベスト8入り

只見町、檜枝岐村、旧伊南村の3町村の子どもたちが参加する合同チームの只見ベアーズが、7月13日、14日に行われた白獅子旗争奪第47回福島県児童ソフトボール南会津地区大会において、優勝を収め、県大会の出場権を手に入れました。

県大会は7月28日、29日に開催され、只見ベアーズがベスト8入りをしました。

また、只見ベアーズは9月7日、8日に開催の東北大会にも出場しています。



▲南会津地区大会の優勝旗を手にした只見ベアーズ

紅獅子旗争奪第47回福島県少年野球選手権大会 只見中野球クラブ 準優勝 & 個人賞に2人が選出



▲準優勝、個人賞の報告に来庁した只見中野球クラブ
(左から、五十嵐さん、梁取さん、木津さん、山内さん)

只見中野球クラブは、8月3日、4日に行われた紅獅子旗争奪第47回福島県少年野球選手権大会に出場し、準優勝を収めました。

また、同クラブから、山内丈大さんが優秀選手賞、五十嵐愛葉さんが敢闘賞に選ばれました。

同クラブの主将木津大翔さん、副主将梁取暖さん、山内丈大さん、五十嵐愛葉さんは町役場を訪問し、受賞の報告をしました。木津さんは「自分にとって最後の大会で準優勝できたのは、応援してくれた家族を始めとした皆さんのおかげです」と感謝を述べました。

カラテドリームフェスティバル2024国際大会 三瓶叶翔さん ベスト8入り

日本空手道神居塾只見同好会の三瓶叶翔さん（只見中3年）は、「カラテドリームフェスティバル2024国際大会」の中学3年男子中量級に出場し、ベスト8の成績を収めました。

1回戦は台湾人選手を相手に延長戦となり、判定勝ちをつかみ取りました。2回戦は他大会で優勝経験のある相手に、技ありを取り、勝利をつかみました。

なお、三瓶さんは、来年開催のドリームフェスティバル2025の出場権も得ており、出場を予定しています。



▲ベスト8に輝いた三瓶さん(前中央)

駅前賑わい創出のため

只見駅前屋台村「ビアガーデン」開催

只見駅前屋台村実行委員会は、8月17日に「駅前ビアガーデン」を只見線広場周辺で開催しました。実行委員会の企画に、しおさわ庵や地元有志らが協力し、駅前の通りで、食事の提供を行うなどし、夕方の只見駅前が人出で賑わいました。

食事提供の他にも、射的の出店やカラオケ大会など、子どもから大人まで楽しめるイベントとなりました。



▲夕方の駅前通りに町内外から多くの方が訪れました

只見町の自然や文化を伝え、守る観光の担い手

只見町公認自然ガイド養成講座が始まりました



▲現地で講習を受ける参加者

町は7月28日から公認自然ガイドの新規養成講座を始めました。

ユネスコエコパークに登録されている只見町では、豊かな自然環境とそれを拠り所にした伝統的な生活や文化の理解を広め、それらの保全につながるエコツーリズムを推進しています。本講座はこの担い手となる人材の育成を目的としています。

初回は、余名沢のたぐみ観察の森を歩きながら、只見町の代表的な森林・自然景観を理解する実習と只見町の自然環境の概要についての座学講習が行われました。養成講座は今年度末まで行われ、修了試験に合格した方は町公認自然ガイドとして活動いただくこととなります。

夜ならではの観察を楽しみました

「夜の昆虫観察会」開催

只見町ブナセンター主催の「夜の昆虫観察会」が8月3日に行われ、親子15人が参加しました。

観察会では、「たぐみ・ブナと川ミュージアム」の周辺を散策し、路上を歩くヒガシキリギリスや、灯火に飛来したノコギリクワガタ、ヒサゴスズメ、樹木の枝にとまるモリアオガエルなどを観察しました。

夜行性の昆虫等との出会いに子どもたちは夢中になっていました。



▲灯火に集まっていたヒサゴスズメ

13年間、只見町の地域医療に尽力 若山 隆先生 朝日診療所離任

若山隆先生が朝日診療所を離任されました。

若山先生は2011年4月に朝日診療所に赴任されてから、約13年の間、只見町の医療を支えてくださいました。日々の診察の他、訪問診療や地域の健康増進など多岐にわたり、ご尽力をいただきました。

新天地でのご活躍をお祈りいたします。ありがとうございました。



▲町職員らに見送られる若山先生

朝日診療所 先生のご紹介

山並先生と一緒に朝日診療所で診察に当たってくださっている先生を紹介します。菅家智史先生、遠藤芽依先生、佐竹秀一先生、佐竹賢仰先生です。なお、水曜日は、県立医大、会津医療センターから交代でお越しいただいています。

※佐竹賢仰先生はご希望により、お名前のみのご紹介です。

※今回ご紹介しているのは、曜日固定でご協力いただいている先生です。



菅家 智史 先生

菅家 智史^{さとし}先生 診察日：第1・3・5週の月、火曜日

菅家智史です。2011年から3年間、只見町朝日診療所で勤務をしておりました。その後少し期間をおいて、ふたたび2022年から月4日程度の診療をお手伝いしております。最初の赴任のときから現在も、只見町の皆さんには大変良くしていただき感謝しております。現在は福島県立医科大学の教員が本業のため支援できる日数には限りがありますが、できる限り対応したいと思っております。よろしくお願いいたします。



遠藤 芽依 先生

遠藤 芽依先生 診察日：木曜日

今年度はほぼ毎週、朝日診療所に応援診療に来ることになりました福島県立医科大学総合内科・総合診療学講座の遠藤芽依と申します。私は医学部入学当初から地域医療に興味があり、低学年の時には朝日診療所の見学に来て民宿に宿泊したことを覚えております。その後研修を修了し、「家庭医/総合診療」という分野を専門にしています。今年度改めて只見に来て、その自然の美しさや人の温かさに感動しております。お役に立てるよう精進して参りますのでよろしくお願いいたします。



佐竹 秀一 先生

佐竹 秀一先生 診察日：金曜日

南会津病院外科佐竹秀一です。この度毎週金曜日に診療所でお世話になることとなりました。只見町では以前、2008～2011年の4年間勤務させていただき、家族共々大変お世話になりました。その後会津中央病院外科・救急科での専門医取得及び大学院を経て（ちょっとは頭良くなりました笑）、2019年より南会津病院外科で勤務しております。現在週1回、救命救急センターでの勤務をしつつ、研修医・学生と一緒に地域医療を楽しんでいます。医師不足のため色々ご不便をお掛けしますが、恩返しもかねて只見の皆さんのために寄り添った医療を提供できるよう尽力しますので、気兼ねなくご相談くださいね。

広報たのみ診療所

退任のあいさつ

朝日診療所 医師 **山並 寛明**

やまなみ ひろあき



朝日診療所医師の山並です。挨拶に不相応な文ですが、転換期に残す意味を想って記事を書いています。

私は9月をもって退任し、しばらくの間診療所は日替わりの非常勤医による外来診療のみの体制となります。他の医療機関から遠い地理的な条件も鑑みると、人口3000人台に対して医師1人の配置、また休日中地域に医師が不在となることも救急や看取りなどの体制に問題を投げかけ、只見町はいま医療面において不公正な境遇に置かれると言って過言にはなりません。私も奥会津の風土と人が大好きなので、とても残念です。

私がこう話すのは、デモ活動をあおりたいわけではなく、ただ町民に今の状況を認知してもらいたいためです。実のところ、住民自身の上げた声に応える形でない支援には責任が伴いません。そのような「支援」は逆効果な場合すら時にあります。問題の所有「権」は責任を負わないどこかではなく、実際に困っている人、問題意識を感じている人にあると考えるべきです。

しかし一方で、一般に人口が1000人いたとき、診療所のような医療機関を訪れるのは約1割とされています。つまり、詭弁ですが診療所の体制は「町の少数者の問題」と言っても字面上間違いではないのです。そこで私は、町の医療に関わる人たちが1チームを作り、スポークスマン(代言人)として今ある課題を整理し発言する構想を提案します。

具体的には、診療所職員、介護施設の職員、救急隊員などが町の医療に関わる職種です。彼らをすべてつなぐハブになれる常駐医師は残念ながらなくなります。職種ごと町の医療を部分的にしか見られないため、町全体の課題を捉えるには各視点を持ち寄ることが必要です。人同士のつながりが強い只見町ならそれができると信じています。町の福祉については社協を中心とした「協議体」(愛称: 楽々しゃべっぺはなまる広場) という団体が既にあり、心配していません。

最後に、応援の先生方をご紹介します。まずは福島医大から、以前から来ていただいている菅家智史先生、そして、濱口杉大教授を筆頭に総合内科の先生です。そのほか南会津病院から週1で佐竹秀一先生、老健・特養の応援に宮下病院から佐竹賢仰先生です。

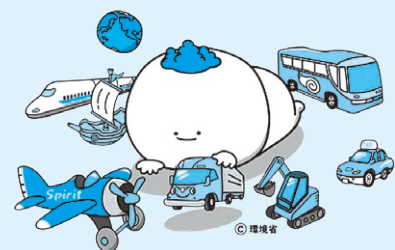
「ネイチャーポジティブ」はだれが、どんな取り組みをするの?

「ネイチャーポジティブ」は、「2020年を基準として、2030年までに自然が損なわれるようなことを食い止め、回復させ、2050年までに完全な回復を達成し、自然と共生する社会を実現する」という世界的な社会目標です。

私たちの日々の生活や経済活動は、自然の恵みに支えられており、自然が損なわれることは、私たちの暮らしのリスクに直結する大きな問題です。こうしたリスクを防止するためには、従来の自然保護だけでなく、地球温暖化などの気候変動対策や資源の循環にも取り組む必要があります。そして、これらを**個人のみならず、企業などの経済界を含んで、地球に暮らす私たち全員が取り組んでいくことが重要**となっています。

ネイチャーポジティブに取り組むことは、国内で2030年に100兆円以上の経済効果も期待されるという試算もあります。自然を守り、回復させていくことは、**経済面でも私たちの暮らしを良くすることにつながっていくのです。**

それでは、具体的にどのような行動をしたらいいのでしょうか。個人レベルの行動では、まずは地域の自然や生き物を知ることから、そして、地域の自然保護活動への参加、環境に優しく資源が循環するような消費選択、自然環境への配慮を意識したライフスタイルの実践などが考えられます。また、生態系へ大きな影響力があり、その損失が経営リスクになる企業については、環境省が持続可能な経営の目指すにあたっての考え方がまとめた「生物多様性民間参画ガイドライン」を策定しており、これを参考に**取り組むことができます。みんなもできることから「ネイチャーポジティブ」をはじめませんか?**



「だいだらぽじー (DAIDARAPOSIE)」
環境省が作成したネイチャーポジティブの
イメージキャラクター。

町民文芸



只見短歌会

令和六年八月詠草

車窓より眺む朝霧さわやかと通院我れの心のみぬ

関谷登美子

初成りの小さき茄子を供へより下げて夫との夕餉となりぬ

目黒 富子

二歳児が小さな口でスイカ食む甘きとこだけしやくしやくと

立花 奏音

宿題は筋トレよりも疲ると小三の孫溜め息をつく

新国由紀子

藍染めに白き刺し子の貼られたる葉書に便りを久しき友へ

渡部ヨリ子

只見俳句会

八月定例会

日高俊平太 指導

通学児ふらりゆらりと炎天下
何鳥かつつくしぐさよ麦の秋

睦子

藤の実の風にふれあう広場かな
かじか鳴く小唄うまれし川あそび

礼

猪の荒す田圃は村はずれ
西空やソバの絨毯じゅうたん赤く染め

一穂

梅雨の雷運ぶ刈草重くせり
初きゆうり遠方からの堆肥足し

修一

戦死の報泣き崩れし祖母の夏
遠き日の蝉時雨の夕まぐれ

信

梅雨月や母のかたみの手まりかな
子供等の昼の賄夏料理

都

薔薇手入れ蜂に刺されてしまけり
先代の植えしブナの木池を被う

真理子

今月のお知らせ

電話番号

総務企画課	財政係	☎82-5210
総務係	企画係	
町民生活課	町民税務係	☎82-5110
	生活安全係	☎82-5100
保健福祉課	保健係	☎84-7005
	福祉係	
成年後見制度利用促進室		☎84-7010
農林建設課	農林係	☎82-5230
	建設係	☎82-5270
	薪エネルギー推進室	☎82-5230
交流推進課	観光係	☎82-5240
	商工労働係	
移住交流係	ユネスコエコパーク推進係	
	(ただみ・ブナと川のミュージアム内)	☎82-5963
会計室		☎82-5120
議事事務局		☎82-5300
農業委員会		☎82-5230
教育委員会		☎82-5320
学校給食センター		☎84-7180
只見保育所		☎82-2219
朝日保育所		☎84-2038
明和保育所		☎86-2249
朝日診療所		☎84-2221
(歯科)		☎84-2612
こぶし苑		☎84-2101
只見公民館		☎82-2141
朝日公民館		☎84-2111
明和公民館		☎86-2111

税 今月の納期

9月25日までに納めましょう

- 国民健康保険税(3期)
- 水道使用料(2期)
- 農集排使用料(9月分)
- 介護保険料(3期)
- 後期高齢者保険料(2期)

お知らせ

テクノアカデミー会津 ZEH技術セミナー

省エネ住宅の高効率設備や再生可能エネルギーに関するセミナーを開催します。エネルギー収支をゼロにする考え方(ZEH・ゼッチ)に関する知識を深めたい方は、お気軽にご参加ください。

なお、詳細はホームページ(<https://www.tc-aizu.ac.jp>)に掲載しています。



ZEH詳細ページにアクセスします

【日時】

令和6年10月11日(金)
午後2時～午後3時30分

【場所】

会津若松市インター西90
アピオスペース大会議室

【申込方法及び問合せ先】

福島県立テクノアカデミー会津
電気配管設備科
☎0241-2713221

JICA海外協力隊 秋募集及び説明会

独立行政法人国際協力機構(JICA)は、開発途上国で現地の人々と一緒に生活をしながら、互いに学びあい、人づくり国づくりに参加できるボランティアを募集中です。

【応募受付期間】

令和6年
10月1日(火)～31日(木)

なお、募集に関する説明会を次のとおり開催いたします。

【会場】

郡山市労働福祉会館

【開催日時】

9月14日(土)14時～16時

【その他】

入退場自由、参加費無料、予約不要です。

その他の説明会に関しては、左記までお問い合わせ下さい。
【問合せ先】
(公社)青年海外協力協会

☎0223-3619851 JICA東北

Email:

boshu-tohoku@oca.or.jp

JICA海外協力隊

ウェブサイト:

<https://www.jica.go.jp/volunteer/>



聴覚障がい乳幼児 子育て相談

福島県立聴覚支援学校会津校では、聴覚障がい乳幼児子育て相談「みみちゃん教室」を開設しています。

言葉を育むには、早期からの楽しいかわりが大切です。お

子さんの様子や相談内容に応じて、一緒に遊ぶ中でコミュニケーションを促し、聞く姿勢や言葉を育てるお手伝いをします。

【日時】

平日 午前9時～午後4時
※年末年始及び祝日は休み

【場所】

会津若松市一箕町大字鶴賀字下柳原102

聴覚支援学校会津校内「地域支援センターみみらんど 会津」

【対象】

きこえやことばに心配がある乳幼児とその保護者

【お問合せ】

電話(FAX兼) 0242-2211286

メール:

fukushima-sd-aizu@fcs.ed.jp



9月・10月 「行政相談月間」

総務省では、9月及び10月を「行政相談月間」と定めています。

行政相談とは、国をはじめ、都道府県や市町村行政に関する意見・要望など、どこに相談したよいか分からないものを含め、幅広い分野の相談を様々な窓口で受け付け、相談内容の解決、行政の制度・運営の改善を図る仕組みです。

行政相談月間に合わせて、臨時相談窓口を開設します。

【日時】

10月23日(水)
午後1時30分～3時まで

【会場】

朝日公民館農事研修室
【只見町担当行政相談委員】

目黒 真弓さん(小川)

【その他】

相談は無料で、予約不要です。秘密は守られますのでお気軽にご相談ください。



広報ただみ町長室

只見町長 渡部 勇夫

◆只見町の若い世代が活躍しています。

只見中野球クラブが「紅獅子旗争奪第47回福島県少年野球選手権大会」で見事準優勝しました。

会津代表として出場した只見中野球クラブは、1回戦では県中地区代表のチームに快勝し、続く2回戦では相双地区代表との接戦を制して、準決勝では県南地区代表に快勝しました。

決勝では、いわき地区代表のチームに惜しくも4対2で敗れましたが、その健闘ぶりは只見町民の皆さんに勇気と喜びを与えてくれました。

同じく「白獅子旗争奪第47回福島県児童ソフトボール大会」でも只見町、檜枝岐村、旧伊南村の子どもたちによる合同チームである只見ベアーズが、南会津地区大会で優勝するとともに、県大会に出場しベスト8入りを果たしました。

また「カラテドリムフェスティバル2024国際大会」では、只見中学校の三瓶叶翔さんが中学校3年男子中量級に出場し、ベスト8の成績を収めました。それぞれの選手の皆様はじめ、監督・コーチ、保護者、関係者の皆様本当におめでとうございます。

◆前段でスポーツを通じて活躍している小学生、中学生のことを書きました。

8月15日には、季の郷湯ら里で令和6年度成人式を挙行し、30名の新成人お一人おひとりに成人証書を授与させていただきました。

「二十歳の集い」という名称で開催されている市町村がかなり多くなりましたが、只見町は引き続き成人式として行っていることをご理解ください。

今年の新成人の世代は、只見高校が春の選抜甲子園大会に初出場した世代です。

選手たちは一生懸命プレーし、関係者の方々も初めて戸惑いのある中、一生懸命準備やサポートをされ、町民はじめ町出身者やご縁のある方等、本当に多くの方々が一生懸命応援しました。町民の「一体感」をより強く感じ、また感じさせてくれた世代です。

只見高校の「小さな学校の大きな可能性への挑戦」の目標通り、その扉を開けてくれました。新成人には、これからの人生においても更なる可能性への挑戦を続け、実り多い人生であることを心から願っております。

町長スケジュール〈8月分〉

- | | | | |
|-----|---|-----|---|
| 1日 | 国道252号六十里越雪わり街道清掃ボランティア、アルソック福島(株)取締役来庁、全会津消防連絡協議会懇親会 | 20日 | (福)南会津会理事会(南会津町)、南会津地方広域市町村圏組合消防本部消防長来庁 |
| 2日 | 南会津地区被害者支援地域ネットワーク総会(南会津町)、民生児童委員との懇談会 | 21日 | (株)季の郷湯ら里取締役会、東北地方ESD活動支援センター来庁、時事通信社福島支局長来庁 |
| 3日 | 沼沢湖水まつり(金山町) | 22日 | 国道289号線建設期成同盟会総会、同事業説明会、同中央要望(東京都) |
| 5日 | 朝日財産区管理委員辞令交付式、南会津地方広域市町村圏組合管理者会、南会津地方町村会合同管理者会、南会津地方環境衛生組合管理者会(南会津町) | 23日 | 只見町議会8月会議、同全員協議会、同経済常任委員会 |
| 6日 | 野村證券(株)福島支店長来庁 | 26日 | 只見町商工会理事との懇談会 |
| 7日 | 南会津地方町村会・南会津地方町村議会議長会・会津総合開発協議会南会津地方部会による南会津を拓く県要望(福島市) | 27日 | 県立南会津病院院長と面談(南会津町) |
| 13日 | 青春18×2のアミ作画担当吉田瑠美氏来庁 | 28日 | 会津総合開発協議会福島県要望、福島県地域振興課長と面談(福島市) |
| 15日 | 只見町成人式 | 29日 | 南会津地方環境衛生組合議会定例会、同全員協議会、南会津地方広域市町村圏組合議会定例会、同全員協議会(南会津町) |
| 16日 | 河井継之助墓前祭、河井継之助を語る会 | 30日 | 議案検討庁議、振興計画策定推進本部会議、只見町文化協会との懇談会 |
| 19日 | 会津縦貫道整備促進期成同盟会中央要望(東京都) | | |

町民の消息

(7月26日～8月25日届出分)敬称略

■おくやみ申し上げます

五十嵐 由 二	80歳	寄 岩
横 山 豪	77歳	榎 戸
角 田 房子	104歳	小 林
目 黒 ヨシミ	94歳	館ノ川
佐 藤 律子	94歳	大 倉
橋 川 タニエ	99歳	小 林
五十嵐 ミネ子	95歳	蒲 生
五十嵐 昭 一	89歳	只 見
須 佐 嵯峨野	94歳	只 見
齋 藤 輝	91歳	亀 岡
横 山 八千代	85歳	榎 戸

※「町民の消息」欄に掲載を希望されない方は、届出のときにその旨をお伝えください。

人のうごき

令和6年8月1日現在

人 口	3,576 (-19)
男	1,767 (-11)
女	1,809 (-8)
世帯数	1,530 (-11)
高齢化率	49.1%

※高齢化率とは、65歳以上の人が人口に占める割合です。

転入 4 転出 17 出生 2 死亡 8

▽今年度、20歳を迎えられた方、迎える方、おめでとうございます。希望を胸に人生を謳歌して下さい。▽今年度は柏市との提携30周年という事で広報担当も、柏まつりにお邪魔して、柏市と踊りを通して交流を深めた皆さんや、町のPRブースで町のPRにご協力いただいた方、柏市の観光スポットの取材などをしました。柏まつりのフィナーレの「シン☆柏おどり」では、老若男女問わず盛り上がり上っており、私もエネルギーをいただてきました。(小林)

あとがき

朝日公民館 図書紹介

朝日公民館図書室
☎84-2111

おすすめ新着図書

☆ツミデミック



【著】一穂 ミチ(双葉社)

大学を中退し、夜の街で客引きのバイトをしている優斗。ある日、バイト中に話しかけてきた大阪弁の女は、中学時代に死んだはずの同級生の名を名乗ったが…。「違う羽の鳥」 失業中で家に籠もりがちな恭一。ある日小一の息子・隼が遊びから帰ってくると、聖徳太子の描かれた旧一万円札を持っていた。近隣の一軒家に住む老人にもらったというそれをたばこ代に使ってしまった恭一だが…。

鮮烈なる“犯罪”小説全6話。第171回直木賞受賞作品です。

☆ブルーマリッジ



【著】カツセマサヒコ(新潮社)

出逢って八年。付き合い始めて六年。同棲を始めて二年。もう僕らのあいだに、新鮮な出来事はほとんど残されていない。いつものスペインバルで年上の彼女にプロポーズした青年・雨宮守。長年連れ添った妻に離婚したいと告げられた中年・土方剛。世代も価値観も正反対だったふたりの人生は、社内のある疑惑をきっかけに、変化し始める。夫婦であること、家族であること、働くこと、生活すること、傷つけること、生きること。過去からも未来からも逃れることのできない世の中で、それでも光を求めて彷徨う者たちの物語。

○朝日公民館ではリクエストを随時受付しています。読んでみたい本があれば、ぜひリクエストしてください。

町民憲章

- 1、ゆたかな緑ときれいな水をまもり美しい町をつくりましょう
- 1、互いに助け合い親切をつくし楽しい町をつくりましょう
- 1、産業をおこしみんなで働ける豊かな町をつくりましょう
- 1、教養を深め心と体をきたえ文化の町をつくりましょう
- 1、きまりを守り良い風習を育て住みよい町をつくりましょう



オシドリ

(学名：Aix galericulata)

(写真・文 太田祥作)

【カモ目カモ科】



▲ 雄成鳥（10月、大倉にて撮影）



▲ 雌成鳥と雛（6月、福井にて撮影）

オシドリは只見町を代表するカモの一種です。雄は豪華絢爛な姿から、他のカモと見誤ることはまずないでしょう。雌は眼を縁取る白いアイリングが特徴です。仲睦まじい夫婦を表す「おしどり夫婦」の由来ともなっていますが、実際は毎年パートナーを代えるという説と、代えない説があるようです。

只見町では夏鳥で、この地域を毎年の繁殖地としています。3月頃から渡来し始め、その時点で雌雄はつがい関係となっています。この時期のつがいは、町内の河川や水路、田植え前の水田など、身近にある水辺で見ることができます。初夏になると、雌は木の洞の中に巣を造って産卵し、卵を温めている間につがい関係は解消されます。雄はその後、雄だけの群れを作って秋まで生活するようになります。雌の方は、孵化した雛を連れて面倒を見、子育てに専念します。なお、雌には血縁度の高い（例えば親子や姉妹）他の雌の巣に卵を産んで、育雛を委ねる「種内托卵」を行うものもいるようです。雌の養育を受けた雛はやがて幼鳥となります。9月になると、成鳥も幼鳥も混ざって沢山のオシドリが集まり、伊南川の何か所かに数十羽を超える大きな群れを形成します。そして10月下旬には、秋の渡りに伴って姿を消します。



▲ 雛（6月、布沢にて撮影）

只見町はオシドリにとって重要な子育ての場となっています。繁殖期に見られる数の多さは県内でも有数と思われ、鳥類愛好家にも驚かされているほどです。オシドリはカモとしては珍しく頻繁に樹木を利用し、枝の上で休んだり、洞の中で卵を産み温めます。つまり、オシドリの生息には水辺と接した樹林が必要不可欠なのです。只見町におけるオシドリの多さは、豊富な水辺環境のみならず、水辺に隣合った樹林があることで成り立っているとと言えます。

只見町ブナセンターからのお知らせ

下記イベントを開催しております。詳細は只見町ブナセンター（電話0241-72-8355）までお問い合わせください。

企画展「誕生から10年。

只見ユネスコエコパークのここまでを振り返り、これからを考える」

会期：2024年4月27日(土)～11月4日(月)

場所：ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー